

＝「コロナ禍の課題に対応するNPOへの支援活動」＝ 2021年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度 実施概要

「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」（以下「本制度」）は、近畿2府4県のNPO支援センターとの協働により、「近畿ろうきん利用者」と「地域のNPO」をボランティア支援を通してつなぐことで、地域貢献をめざす制度として、2000年度からスタートしました。

2011年度以降は、東日本大震災を受けて、本制度を被災地支援・防災・減災のプログラムに変更し、2018年度からは「社会的弱者の居場所づくりへの支援活動」、2020年度からは「新型コロナウイルス感染拡大に対するNPOへの支援活動」を主なテーマとしました。

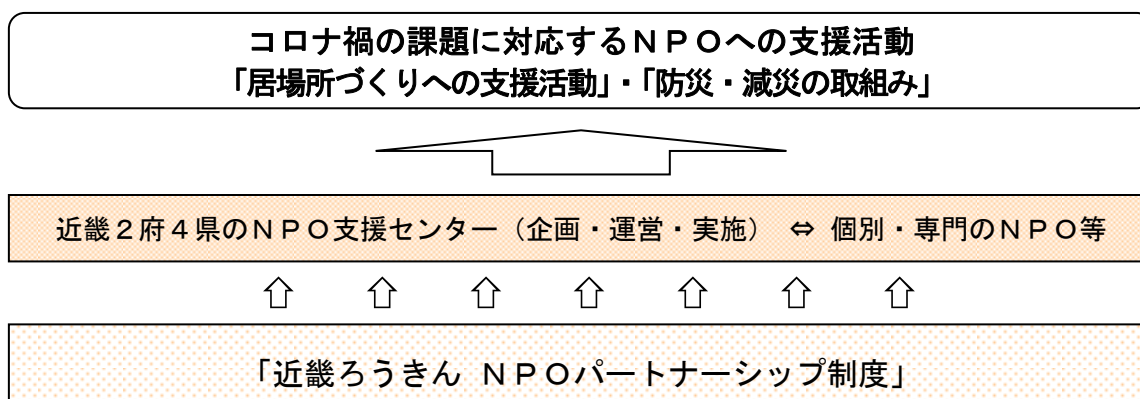
現在、NPO等の市民活動は、コロナ禍のなか、オンラインの活用や感染対策など社会環境の変化への対応を進めるとともに、困難な状況になっている人への支援活動を進めています。

そこで、2021年度は「コロナ禍の課題に対応するNPOへの支援活動」を主なテーマとし、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」社会づくりに向けて取組みを進めます。

また、「居場所づくりへの支援活動」や「防災・減災の取組み」も継続して行います。本制度の実施概要は以下のとおりです。

1. 実施の仕組み（イメージ図）

2021年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度 実施テーマ



2. 実施概要

実施方法	実施テーマに沿って、2021年5月～2022年1月にNPO支援センターが企画・運営するプロジェクト（セミナー・シンポジウム・調査・研究等）に対して、近畿ろうきんが共催として実施するもの。
プロジェクトの内容	1. 「コロナ禍の課題に対応するNPOへの支援活動」に関するセミナー・調査など 2. 「居場所づくりへの支援活動」・「防災・減災の取組み」に関するセミナー・調査など ※NPO支援センターによって、実施する内容は異なる。
プロジェクトとSDGsの17のゴールとの関わり	   

3. NPO支援センター

地区	NPO支援センター名	所在地	電話番号 ホームページ
滋賀	認定NPO法人 しがNPOセンター	〒523-0893 近江八幡市桜宮町 207-3 K&Sビル 3F	0748-34-3033 http://shiganpo922.shiga-saku.net/
奈良	NPO法人 奈良ストップ温暖化の会	〒631-0032 奈良市あやめ池北 3丁目 12-27	0742-49-6730 https://naso.jp/
京都	NPO法人 きょうとNPOセンター	〒600-8492 京都市下京区四条通新町東入ル 月鉾町 52番地 イヌイ四条ビル 3F 302号室	075-744-0944 http://www.npo-net.or.jp/center/
大阪	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目 2-20 2F 市民活動スクエア「CANVAS 谷町」	06-6809-8391 http://www.osakavol.org/
和歌山	認定NPO法人 わかやまNPOセンター	〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12	073-424-2223 http://www.wnc.jp/
兵庫	NPO法人 シンフォニー	〒660-0861 尼崎市御園町 5 土井ビルディング 2F	06-6412-8025 http://www.npos.cc/
	認定NPO法人 コミュニティ・サポート センター神戸	〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104	078-841-0310 http://www.cskobe.com/

事務局／近畿労働金庫 地域共生推進室
 〒550-8538 大阪市西区江戸堀 1-12-1
 TEL 06-6449-0842、FAX 06-6449-1414
 ホームページ <https://www.rokin.or.jp/>
 Facebook <https://www.facebook.com/kinkirokin/>

東日本大震災 復興支援定期『サポートV』のご報告

2020年度 第10回寄付金

あしなが育英会・ゆめ風基金の各団体に**375万円**を寄付しました！

「サポートV」の2021年3月末日の残高は24億73百万円となり、第10回の寄付金として、各団体に375万円（総額750万円）をお届けしました。

2019年度 第9回寄付金（各390万円）の活用報告

一般財団法人 あしなが育英会（震災遺児支援）

「あしなが育英会」は、病気・災害・自死などで親を亡くした子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体です。

2014年に開設した仙台・石巻・陸前高田の東北レインボーハウスでは、いただいたご寄付をもとに、震災・津波遺児への継続的なサポート活動を行っています。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、対面での心のケアプログラム開催中止が相次ぎましたが、2020年7月より感染予防対策を徹底の上、徐々に再開しております。今回の寄付金は、このケアプログラムに活用させていただきました。また遺児家庭に対するコロナ禍における生活状況アンケートや東日本大震災遺児の作文集「お空から、ちゃんと見てね。」の刊行にも取り組みました。



作文集
「お空から、ちゃんと見てね。」

認定NPO法人 ゆめ風基金（被災障がい者支援）

「ゆめ風基金」は阪神淡路大震災が起きた1995年に、被災障がい者の救援や復興支援等を目的に設立された団体です。

これまでの寄付金で地震や津波で被災した作業所、グループホームなど障がい者の大切な生きる場、働く場の再建や建設等を、延べ24か所で行ってきました。

2019年度 第9回寄付金は、障がい者の就労支援として農園の労働環境の整備や農機具の購入費用、地域住民と障がい者が集う交流施設の建設費用に活用させていただきました。東日本大震災から10年を迎えた今も被災地の復興を後押しできていることは心強いことだと思っています。預金者の皆さまにこころからの感謝を申し上げます。



購入した農機具で農作業をサポート

「サポートV」による10年間のご支援、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

東日本大震災の発災当時、会員組合の皆さまと取り組んだ「サポートV」は、161億円のご預金を結集いただきました。2012年度以降、前年度末の「サポートV」残高にもとづき、毎年度、「あしなが育英会」と「ゆめ風基金」に寄付を行ない、10年間の寄付総額は、1億5,580万円となりました。



東日本大震災遺児支援にご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。

東日本大震災から10年間にわたり、毎年多額のご寄付をいただいたことに、心より御礼申し上げます。

これまでの寄付金は、津波遺児への特別一時金、遺児やそのご家族が集う東北レインボーハウス（仙台・石巻・陸前高田）の建設・管理・運営費用、心のケアプログラムなどの支援費用などに大切に活用させていただきました。

10年前の地震・津波で2083人の子どもたちが親を失いました。揺れ動く気持ちと葛藤のなか、遺児たちは今を懸命に生きています。これからも「遺児とともに歩むあしなが運動」にご理解とご支援をお願い致します。

（一般財団法人あしなが育英会 会長 玉井 義臣）



近年いろんな災害が多発し東北のことが忘れられようとする中で、10年の長きに渡り被災した障がい者の支援をいただける「サポートV」は、とてもありがたい支援でした。

これまでの寄付金は、津波で流され地震で全壊・半壊してしまったグループホームや障がい者が働く作業所などの建設・改修・移転費用、送迎車両や事務機器・農機具等の購入費用、畑の整備事業などに大切に活用させていただきました。

未だに仮設住宅が残る東北の人たちを長期に支援できる「サポートV」は、被災地の皆さんに寄り添って一緒に考える機会を作っていただきました。あらためて、預金者の皆さまにこころからの感謝を申し上げます。

（認定NPO法人ゆめ風基金 代表理事 牧口 一二）

近畿ろうきんFacebookページでは、当金庫の社会貢献活動による助成先・寄付先団体のイベントや活動状況などを随時公開しています。ぜひフォローをお願いします。

<https://www.facebook.com/kinkirokin/>

近畿ろうきんの活動はコチラ！



2020年度 近畿ろうきん 社会貢献活動 助成金・寄付金のご報告

2021年6月23日 近畿労働金庫 第23回通常総会 報告資料

NPOアワード受賞団体のご報告

近畿ろうきんNPOアワードは、「子どもの成長を応援する事業」、「子育て環境を整える事業」を実施する近畿圏のNPOなどの団体から事業プランを公募し、審査委員会の審査によって受賞団体を決定する助成金制度です。

2020年度における教育ローンの新規融資額の0.05%（173万円）を受賞団体に助成しています。

2020年度は46件の応募があり、その中から下記の団体が受賞されました。

はばたきコース

大賞

助成額
50万円

一般社団法人
笑いの保育わくわく（兵庫）

子育ての孤立化・虐待を水際で防ぐ、コロナ禍の子育て環境に対応したオンライン支援プログラム



奨励賞

助成額
20万円

NPO法人 月と風と（兵庫）

WE-AR MEETS!
（ウェアミーツ）
～車いす店員がリユース服を
子どもたちへお届け～



NPO法人 ここ（大阪）

不登校の子どもたちの文化祭「FREEDA BAL」の開催とフリースクールでのコーヒースタンドの運営



KADOMA中学生勉強会（大阪）

「門真の子どもたちにさらなる学べる環境を！」市内在住の中学生・高校生を対象に無料の自習室を開設



奨励賞

助成額
13万円

わいわい子ども食堂はしもと（和歌山）

【コロナ禍の子育て家庭への食糧支援事業】経済的に困窮の状態にある子育て家庭に食料を届け、社会的孤立を防ぐ



はぐくみコース

はぐくみ賞

助成額
10万円

子育て支援サークル
野の花ほっとスペース（奈良）

子どもを虐待してしまう親の回復プログラム～グループケア支援～



サステナU（ユー）（奈良）

ちきゅうと遊ぶ・まなぶ・くらす～ちきゅうの子どもたちの活動時間「ちきゅうクラブ」（Tシャツを1からつくろう）



近畿ろうきん

社会貢献預金（笑顔プラス）

寄付金を活用した活動報告

2018年4月よりスタートしました社会貢献預金（笑顔プラス）は、2021年3月末日までの期間、当金庫をご利用いただいている会員・組合員の皆さま、市民の皆さまにより、91億79百万円もの《意思あるお金》を結集いただきました。

2021年6月の寄付金につきましては、預金者の寄付負担（金利引き下げ分の利息相当額）と当金庫からの拠出金を地区別団体・近畿共通団体のそれぞれで定めた割合で均等按分し、総額2,879,906円を各団体へ当金庫より贈呈しました。

残高：91億79百万円 (2021年3月31日現在)	預金者の寄付負担 当金庫からの拠出金	379,906円 2,500,000円	寄付金額：地区別団体 近畿共通団体	228,493円 297,488円	(1団体あたりの寄付金) (1団体あたりの寄付金)
-------------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	------------------------------

滋賀地区 公益財団法人 国際湖沼環境委員会 〈国際協力・環境保全〉

世界の水議論における湖沼問題の主流化を目的に、湖沼流域管理の重要性を世界に発信するため、国連環境計画（UNEP）と共同により、日本をはじめ9カ国の政府機関代表者等をパネリストとした国際ウェビナーを開催しました。



理事長 竹本 和彦

奈良地区 NPO法人 奈良ストップ温暖化の会 〈環境保全・地域づくり〉

世界文化遺産でもある「春日山原始林」は、気候変動の他さまざまな要因からこの森を維持することが難しくなっています。そこで「春日山自然学校プロジェクト」を開催し、春日山を実際に歩いて原始林の現状と環境保全活動の必要性を学んでもらいました。



理事長 当麻 潔

京都地区 NPO法人 京都丹波・丹後ネットワーク 〈地域づくり・防災〉

コロナ禍において不安を感じている外国籍や外国にルーツのある人たちに対して、食材の配布や交流会、相談会、学習支援等を実施しました。孤立や不安の解消に繋がるよう、外国人支援者に通訳を依頼するなどの工夫をしました。



理事長 牧 紀男

京都地区 NPO法人 山科醍醐こどものひろば 〈子ども支援・貧困対策〉

家庭的に困難さを抱える子どもに対して、食事・学習・余暇支援、食材配布を実施しました。活動に来ている子どもたちは、不登校、虐待、育児放棄、経済的貧困など様々な課題を抱えており、その子どもたちのために、安心・安全でホッとできる居場所を提供しました。



理事長 村井 琢哉

和歌山地区 認定NPO法人 わかやまNPOセンター 〈地域づくり・防災〉

新型コロナウイルス感染症を災害と考え、橋本市市民活動サポートセンターに、オンラインのために必要な機材を贈呈し、ネットで防災講座を実施しました。橋本市で活動するNPOの皆さんにも機材を活用いただき、コロナ禍でも活動を継続いただければと思います。



理事長 平原 佳和

大阪地区 公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト 〈日本初の地域型子どもホスピス〉

コロナ禍でも病気の子もたちの様々な体験や楽しみを生み出すため、宿泊（ステイ）の活動を受け入れ枠を限定して実施しました。年間13組の受け入れでしたが、この一つひとつはかけがえのない思い出となって、子どもたちやご家族に大事なものとなっています。



代表理事 高場 秀樹

大阪地区 認定NPO法人 いくの学園 〈女性・マイノリティ支援〉

サバイバー（被害当事者）支援拠点に緊急避難された大人と子どもの支援を行いました。生活を立て直すために病院、法律事務所、裁判所、市役所など、様々な機関に同行支援を行いました。通訳が必要な外国籍の方への支援も多くなっています。



理事長 雪田 樹理

大阪地区 NPO法人 日常生活支援ネットワーク 〈障がい者生活支援〉

被災障がい者支援と地域福祉をつなぐ活動として「東北⇄関西⇄九州ポジティブ生活文化交流祭」を開催しました。今年度はオンラインで開催し、全国各地で被害を受けた団体が災害直後と現在を報告し、大阪からの支援を振り返りながら発信しあう活動を行いました。



理事長 柿久保 浩次

兵庫地区 一般財団法人 あしなが育英会 〈災害・病気の遺児支援〉

東日本大震災・津波遺児等への支援・心のケア活動を行いました。コロナ禍のなか、感染対策を徹底し徐々に活動を再開しました。遺児家庭に対するコロナ禍での生活状況アンケート調査や遺児たちの作文集「お空から、ちゃんと見ててね。」の刊行にも取り組みました。



会長 玉井 義臣

兵庫地区 NPO法人 CODE海外災害援助市民センター 〈国際協力・被災地支援〉

コロナ禍を災害とみなし、中国のNGOと連携した武漢市の市民ボランティア支援や海外のNGOとコロナ禍の取り組みを共有する国際アライアンスを運営しました。また、コロナ禍で生活困窮に陥ったフィリピンの女性グループの助け合い活動の支援も行いました。



代表理事 室崎 益輝

近畿共通 認定NPO法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 〈災害救援・防災〉

コロナ禍で活動が制限されるなか、令和2年7月豪雨災害では団体関係者のみに限定し、被災地支援に入りました。また、現地に行かなくてもできる支援として、写真洗浄会を開催しました。日頃の防災活動もリモート形式で防災セミナー等を実施しました。



理事長 渥美 公秀

近畿共通 NPO法人 関西NGO協議会 〈国際協力〉

高校生を中心とした国際協力のイベント「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」をオンラインで開催しました。高校生実行委員会が中心となって運営を行い、全国の高校生に国際協力・SDGs普及啓発プログラムへの参加の機会を提供しました。



代表理事 三輪 敦子

もう10年、まだ10年

東日本大震災復興支援定期「サポートV」報告会

～ 10年間の支援の意義とこれからの東北・災害支援を考える～

第一部 「サポートV」による支援先からの活動報告



一般財団法人 あしなが育英会
東北レインボーハウス 所長
心のケア部長
西田 正弘さん



一般財団法人 あしなが育英会
東北レインボーハウス
子どものプログラム担当
山下 高文さん



NPO 法人 奏海の杜
代表理事 太齋 京子さん
(宮城県)



NPO 法人 コーヒータイム
理事長 橋本 由利子さん
(福島県)

第二部 クロストーク

「10年間の支援を振り返り、
これからの東北・災害支援を
考える」

西田 正弘さん 東北レインボーハウス 所長・心のケア部長
八幡 隆司さん 認定NPO法人 ゆめ風基金 事務局長
八尾 高伸さん 近畿労働金庫 地域共生推進室長

共催：認定NPO法人ゆめ風基金
一般財団法人あしなが育英会
近畿労働金庫

2021 年

10月23日(土)

13:30～15:40

オンライン(Web)開催

■オンライン開催について

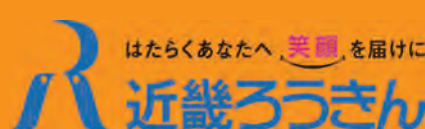
当日は、「YouTube」での配信となります。お申込みいただいた方に、当日の視聴 URL をご連絡します。

写真：2011年3月被災直後の山田町
【提供 被災地障害者センターいわて】

認定NPO法人ゆめ風基金

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-13-43-106
TEL 06-6324-7702 FAX 06-6321-5662
Email: info@yumekazek.com

お申込み
お問合せ



もう10年、まだ10年

東日本大震災復興支援定期「サポートV」報告会

～10年間の支援の意義とこれからの東北・災害支援を考える～

「サポートV」とは

東日本大震災以降、2011年6月から2012年3月まで取り組んだ東日本大震災復興支援定期「サポートV」は、被災地の震災遺児支援を行っている「あしなが育英会」と被災障がい者の支援を行っている「ゆめ風基金」へ、当金庫から10年間にわたって寄付を行う社会貢献預金です。161億円のご預金を結集いただき、10年間の寄付総額は、1億5,580万円となりました。

「サポートV」の支援先



陸前高田レインボーハウス（あしなが育英会）



奏海の杜：交ゆう館かなみ（ゆめ風基金）

報告者のプロフィール

一般財団法人 あしなが育英会 西田 正弘（にしだ まさひろ）さん
12歳のとき交通事故で父親を亡くす。あしなが育英会の奨学金を利用して進学、國學院大学文学部卒業。2006年から「あしながレインボーハウス」チーフディレクターを務め、病気や事故、自死、犯罪被害などで親と死別した小中学生と保護者のグリーフ・サポートに取り組む。2015年から東北レインボーハウス所長を務め、2019年度より現職。

一般財団法人 あしなが育英会 山下 高文（やました たかふみ）さん
17歳のときにガンで父親を亡くす。あしなが育英会の奨学金を利用して進学、東北福祉大学卒業。2009年よりボランティアとしてグリーフサポートプログラムに関わり、東日本大震災以降も継続して死別を経験した子どもたちと関わる。2012年にあしなが育英会に入局。現在は主に岩手県を担当エリアとしつつ、東北全体の子どものプログラムに関わる。

NPO法人奏海の杜 太齋 京子（ださい きょうこ）さん
大学では民俗学を専攻し、大手損害保険会社に入社。2000年に宮城県南三陸町へ移住し、子育てのかたわらフリーライターとして活動した。中学校の教員補助として支援学級に関わっていた縁で、震災後は被災地障害者センターで被災障害者の支援にあたる。2021年6月、宮城県登米市に障害児者と地域の交流拠点“交ゆう館かなみ”を開設した。

NPO法人コーヒータイム 橋本 由利子（はしもと ゆりこ）さん
「精神福祉ボランティア養成講座」を経て1997年から相双地区の作業所のボランティアを始める。2006年浪江町に小規模作業所コーヒータイムをボランティア仲間と一緒に立ち上げる。2008年NPO法人を取得し理事長に就任する。2011年3月東日本大震災と原発事故により、浪江町より全員が避難となるが、同年10月二本松市で事業を再開する。

認定NPO法人 ゆめ風基金

1995年、被災障害者の救援を目的に永六輔さん、小室等さんら著名人と障害者、支援者が呼びかけて発足。これまで被災障害者救済金・救援活動費は5億6300万円にのぼります。東日本大震災では、いち早く障害者救援活動を開始、今も障害者の生きる場・働く場の復興を応援しています。「一番困っているところにすばやく届ける」ことをモットーに全国の障害者団体と連携し、緊急時に備えています。また、障害者の立場から「防災提言」を発信しています。

一般財団法人 あしなが育英会

病気や災害、自死（自殺）などで親を亡くした子どもたちや、親が重度障がい働けない家庭の子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体です。奨学金による進学支援を行うと同時に、20年以上にわたって遺児たちの心のケア活動を継続しています。国などからの補助金・助成金は受けず、すべて寄付金で運営しています。ご寄付の9割以上は個人の方々「あしながさん」からです。あしなが育英会は、親を亡くしたすべての子どもたちを支えたい、を目標に遺児支援活動を続けています。

近畿ろうきん（近畿労働金庫）

ろうきんは、労働組合や生活協同組合などの働く仲間がお互いに助け合うために、資金を出し合ってつくった協同組織の福祉金融機関です。非営利を原則として、働く人たちの暮らしを支え合い、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的としています。近畿ろうきんは、地域との共生活動（NPO・社会福祉法人への融資、地域の非営利・協同セクターとの協働など）を通して、地域の福祉を支えるグッドマナーの循環をめざしています。

《お申込み方法》

- ①お申込みは「お名前」「ご所属」「連絡先メールアドレス」「連絡先電話番号」をゆめ風基金へメール（info@yumekazek.com）、またはFAX（06-6321-5662）でお知らせください。
※お預かりする個人情報、本イベント以外の目的で使用いたしません。
- ②当日は、「YouTube」での配信となります。お申込みいただいた方の連絡先メールアドレスに、当日の視聴URLをご連絡します。